

高知市丸池町の西田泰士さん(58)は現役の銀行員。高知銀行での仕事の傍ら、地方銀行員を主人公に据えた小説「イツ・マイ・ライフ」をつづり、1日に文芸社から自費出版した。「自分が作家デビューできたなんて」と喜びをかみしめている。

西田さんは同市出身。明德義塾中高校から山口県の大学へと進んだ。思春期の1980年代は洋楽のミュージックビデオの全盛期。カラフルで洗練された表現者はずっと憧れていた。

特にミュージシャンで、芥川賞作家となった辻仁成さんに影響を受けたという。『冷静と情熱のあいだ』のような

## 銀行マン 夢の小説出版



小説を手に「挑戦することの重要性を伝えたい」と話す西田泰士さん(高知新聞社=山下正晃撮影)

内面にぐっと迫る描写に魅了された。表現欲求が強まり「小説なら形に残り、胸に響き続ける」。昨年1月から毎日、自宅でパソコンのキーをたたいた。

「神奈川県箱根町の支店に赴任した高知県出身の57歳の地方銀行員」。地元企業への融資や金融商品の販売に汗を流すリアルな生活を描き、金融用語が飛び交う。宗田節やゆずドリンクといった高知らしい産品も登場するほか、新型コロナ禍や昨年12月の日銀の金

利変動も盛り込み、ライブ感あふれる内容に仕上げた。

そんな主人公の夢は宇宙旅行。その実現に、海外株への投資など資産運用で資金を稼ぎ、日々奮闘する。「夢を持つことと、挑戦することの重要性を伝えたい。リスクを負わないと、本当に価値あるものは得られない」というメッセージを託した。

「一発屋で終わりたくない」と次作を執筆中だそう。「次は自費じゃなく、企画出版できるよう頑張る」。

本は千部印刷。ネット通販のアマゾンのほか、高知鳥屋書店(高知市南御座)などで1650円で販売する。

(川田樹希)